論文審査の結果の要旨

氏名　濱　泰一

本論文は全７章からなっている。第１章では、社会的ジレンマと言われている環境問題の解決のために重要である道徳的価値観を、既往研究と文献をレビューして新たな定義を行っている．そして環境問題解決のための道徳的価値観を高めるための環境教育を整備する上で事前把握が必須となる現在の高校生の環境問題に対する道徳的価値観を把握し、道徳的価値観がどのような要素に影響を受けるのかを把握することの意義を示した。具体的には神奈川県相模原市を対象に事例調査を行うこととしている。第２章では高校生の環境問題に関する道徳的価値観の尺度を作成するために、質問群を既往研究と独自の解析から道徳的価値観尺度を分類し、２度の予備調査により高校生の道徳的価値観の傾向を把握し、同時に質問群による道徳的価値尺度を構築している。第３章では、２章での質問群を用いて神奈川県相模原市内の全日制高校14校を対象に質問紙調査を行い 3520 の回答を得ている．本質問紙調査の結果を分析しデータの妥当性を明らかにし、学校単位の道徳的価値観の比較から環境教育の方針提案を導いている．一連の分析は、学校データを高校生の環境問題に対する道徳的価値観を把握、比較するために有効と考えられる道徳的価値観尺度を新たに作成する過程と作成された尺度を使った調査の結果を示したものである。第４章では、道徳的価値観に影響を与えると考えられる要素のうち、地域の環境指標として、相模原市の緑被率、緑視率と騒音を取り上げて検討し、それぞれの環境データを資料調査と現地調査より把握している．そして第２章、第３章で構築し集計した道徳的価値観尺度を使った調査の結果と対応させた態把握の方法を示している。第５章では、第１章から第４章までで集めた資料をもとに分析を行い、第６章、第７章で考察とまとめを出している。その内容は以下のようになる。

本論文では、新たに道徳的価値観を「環境問題に対する道徳的価値観とは、環境問題の中やそれを解決する際に現れる道徳的価値に対する個人の感覚のことで、道徳的価値を表現する行動力も含む」と定義した。道徳的価値観を把握するために新たに道徳的価値観尺度を作成し、神奈川県相模原市の高校生を対象に大規模な道徳的価値観質問紙調査を実施した。道徳的価値観尺度の作成に関しては最初に環境問題を、「地域と地球の環境」「自然と生物」「資源・エネルギー」「一般的配慮」の４つに分類した。４つに分類した環境問題全体を網羅するように多くの質問（質問群）を作成し、道徳的価値観を評価できるような選択肢とそれに対応する得点を用意した。これらの質問を使って、2 度の予備質問紙調査を対象地域外の高校で行い、その結果に対して、平均点の検討、クロンバ

ックのα係数の確認、G-P 分析、再現性の確認を行い、道徳的価値観を評価しやすく、かつ信頼性のある質問を抽出して、道徳的価値観尺度を完成させた。

2 度の予備質問紙調査と道徳的価値観質問紙調査の結果、「自然と生物」の得点が有意に高くなっていた。また、マスコミで扱われるような大きな環境問題に関しての得点も高くなっていた。しかし逆に、税など強制的に徴収されるものに関する得点は著しく低くなっていた。

道徳的価値観がどのような要素に影響を受けているかについては、既往研究から要素を抽出し、それらに関するデータを道徳的価値観質問紙調査から取り出した。さらに地域の環境からも道徳的価値観は影響を受けていると考え、「緑被率」「緑視率」「騒音」（「地域の環境指標」）についてもデータをそろえた。

分析の結果、本研究で取り上げた要素だけでは、道徳的価値観の得点を予想はできなかった。しかし、「子どものころの遊びの経験」「環境問題に対する家族の態度」「ペット飼育の経験」「野外レジャーの経験」は確実に影響があることが明らかになった。また「情報源」のうちの「本」や「学校の勉強」、さらに学習の成果と考えた「偏差値」についても比較的影響があることが明らかになった。「地域の環境指標」については、他の要素に比較して影響は小さかった。ただ、「資源・エネルギー」に関しては、「緑視率」が負の影響を与えているということは確実になっていた。「緑視率」の影響が比較的強く出ていたのは、視覚的な情報であることが大きく、影響が負の影響であることは、緑がなくなったときの危機感の現れではないかと考えられた。

これらの結果を基に、高校における環境教育のカリキュラムについて、総合的な学習の時間だけでなく、学校行事に組み込むことや、教科「環境」を新設して、保護者も一緒に教育するような提案を行うことができたことは重要と考えられる。

道徳的価値観の違いを明確にできるという意味において、尺度の有効性、信頼性は計 3 回の質問紙調査で証明された。さらに道徳的価値観尺度は、環境問題の解決に際して、考え方の別れる問題が残ってきており、本研究での質問紙を高校生に回答してもらうことで環境問題について考えさせることができるため、環境教育教材としても利用できるものとなった.

このように申請者は、環境問題の解決に重要な役割を果たす道徳的価値観に着目し、特に価値観が定まる年齢世代である高校生を対象として道徳的価値観を計測するための質問紙を作成し事例調査により完成させた．また高校生までの居住地周辺の環境指標との関係性についても調査を進めている。今後の若い世代の人々が環境問題に関する道徳的価値観の獲得し高めて行くために高校での環境教育において必要な計測手法を秋からにした．以上のことは自然環境研究の基礎的成果として評価できる。

従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める.